

心理学講座たより

「心理学講座」第10回配本附録

東京都神田区神保町2の24 電車通り 株式会社 中山書店



ピアノ談義

兼常清佐

ひどく役にたたないことに力をそそぐと、むだ骨
おりだと笑われる。長い間の習わしとはいいながら
音楽をやることには、かなりひどいむだ骨おりがあ
る。私は音楽のうちではピアノが一番すきである。
それでピアノを見本にして、音楽がどんなにむだ骨
おりなものか、ちょっと考えてみよう。

まずピアノを音楽と考える。音楽は耳で聞くもの
である。見せ物なら目で見るが、耳で聞くだけなら
目の方はどうでもいいはずである。それならピアノ
は右手左手に一人ずつかかって、二人でひけばどん
な曲でもすぐひかれる。あれを無理に一人でひこう
とするからむずかしくなるのである。ピアノを一人
でひこうとするのは、ちよよと靈助が山かごを一
人がかつごうとするようなものである。山かごは二
人がかつげば軽々とかつがれるものである。ピアノ
は名人が一人でやらなくては本当の味が出ないと思
うのは、目で見る役者の芸などと一しよに考えるこ

とからきた間違いである。ピアノ
は譜がきままっている。そのきまっ
ている譜をひくことだけでは
人々の心の違いの現われる処は
きわめてわずかである。本当は機
械でやつてもまず同じであらう。
それだから、ピアノを一人でひく
などは非常なむだ骨おりである。

山かごは靈助が二人がかつぐように、ピアノも二人
でやる道具だとなれば、音楽の世界はよほど明るく
理屈のおつたものになる。

ピアノの譜もかなりむだ骨おりである。もし音楽
がわれわれのような常なみの人間を目あてにするも

日本応用心理学会大会

研究発表報告

応用心理学論文集

右ができました。部数に限りがあります
ので、御希望の方は、なるべくお早目に
売価五〇〇円・送料三〇円をそえて、発売
所の中山書店にお申込みください。

日本応用心理学会

のなら、あれは明かにむだ骨おりである。

われわれの耳にはあれだけの音は聞きわけられない。たとえベートーヴェンの名高いゾナーテⅡ月の光Ⅱの第三のプレストのところを聞いてみよう。ここは小節の数が一九五ある。それを一分間に二分音符を八八聞く割合にひけば、十六分音符は大体〇、一秒の長さになる。われわれがふだん話をする時の言葉の一つづりの大体半分くらゐのものである。そして、この曲には右手だけで——これは数え方によってかなり数は違ってくるが——少くとも二五五七の音、左手だけに二二六九の音がある。それで合せて四八二六の長さ、高さ、強さの違った音がいろいろこみいった組合せで聞える。ベートーヴェンのゾナーテの中でもこの曲は割合に簡単ではあるが、しかしわれわれの頭ではこれだけの音を、この時間で正しく聞きわけることはとてもできない。それは常識でもわかることである。それでベートーヴェンよりも後の人々の転調の多い、ひどくこみいった組たてのピアノの曲など、われわれの耳にはその何割も本当にははいっていないことになる。

ピアノひきの方では、その多くの音を一

つも間違えずにひこうとする。ピアノは *sauter* にひけつというのは、ピアノひきの合言葉である。音一つも間違わないということは、ⅡザウベルⅡであることのまず初めの一足である。この一足がわれわれにはすでにむだ骨おりである。

そうかといってピアノをめちゃめちゃにひいても音楽にならない。そこに一つの限りがある。ここまではピアノはぜひ正しくひかなくてはならないという限りがある。

それまでやればまずその曲が与えるだけの感じは与えられるという限りのところがある。たとえば、このⅡ月の光Ⅱのプレストの第Ⅱ小節の八分音符の二つのアコードは譜の上では一つはⅠで、一つはⅠ♯である。もしこれを二つともⅠでひいても、われわれ並々の人間の耳には大した違いはない。そんなことは一小節ごとにある。

われわれはある曲をある芸術の全体として聞く。われわれはこのⅡ月の光Ⅱのプレストが四八二六の音からできているとは決して聞いていない。それは、たとえば千円の銭は実際には一円の千万倍とは誰も思わないようなものである。千万円を受取るに十円札や百円札の五枚や十枚がどんなに

なっても問題にしないようなものである。

そんなものは実際では切捨てである。音楽でも切捨て点がある。それが、私のいったⅡ限りⅡである。ピアノは、このⅡ限りⅡすれすれのところまでひけばいい。それからさきはむだ骨おりである。ピアノをⅡザウベルⅡにひくなどということは、非常に珍しい通人たちの世界にだけに通用することである。

音楽は理くつから始つたものではない。それはわれわれにはとても考えられもしないほど優れた頭と心をもつた天才が作出した芸術である。そのような天才の芸術家にはまた別の世界がある。それはわれわれには決してわからない世界である。その世界のことを別にどういおうとは思わない。われわれはわれわれの世界のことしか考えられない。今私は音楽を、ピアノを見本にしてわれわれの世界で考えたのである。われわれも芸術の天才の世界の一はしでも、のぞいて見たいとは思ふ。そのように勉強しようとは思ふ。しかしそれは多くは望みだけのものである。実際では、音楽はこんなものだと思ふ。(文学博士)

ポリプラグマジア

松田道雄

医者言葉にポリプラグマジア (Polyprufusin) というのがある。過剰治療と多読されている。無効の治療を盛り沢山にすることをいう。食前と食後に散薬をのませ、食間には水薬をあたえ、ねる前には頓服を命じ、医者が出かけていって、注射薬を二、三種カクテルのように混ぜて注射し痛いところには湿布を貼りかえてやるといったたぐいである。

医者の治療が病人からの報酬をあてにして職業的に行われるようになって以来、このポリプラグマジアは医者の骨がらみになってしまったといつてよからう。

医学というものがまだ充分発達しないで病気の原因がはつきりつかめず、原因的療法がなかった時代には、医者は病人の苦痛に応じて対症療法をあれこれと行わなければならなかったから、ポリプラグマジアは多少とも、病人の不安をやわらげるとい

心理学的効果もあつたにちがいない。

けれども現在では、この風習は医学の発達をじゃましていくように思う。

病気の原因というものが次第にあきらかになつてくるのにしたがつて原因的療法が多くなり、それだけ対症療法の必要がなくなつてきた。

子供の肺炎などでもペニシリンを一本注射しておけば、咳止め薬の必要もなければ芥子の湿布もいらぬ。まして言よくやつた強心剤の時間注射などというものは全く不要になつてしまった。

また子供の自家中毒といわれる週期的に嘔吐をおこしてぐったりする病氣も、神経質の子供におこつてくる特別な反応であるといふことがわかつてきた。以前のよう大きな注射をしたり、痛いビタミンを注射したりすることは、かえつて子供の精神をたかぶらせ発作を固定させるので、なるたけ何もしないでそつとしておくのが一ばんいい。

ところが実際では肺炎だからペニシリン一本でいいというわけにはなかなかないかな

心理学講座

第 十 一 回 配 本 内 容

現代ドイツ心理学

阪大助教授 前田 嘉明
成蹊大助教授 霜田 徳爾

青年の心理

日本女子大教授 児玉 省

現代の青年

法政大教授 乾 孝

不適応児

皇土学院大教授 鈴木 清

失行症・失語症

金澤大教授 秋元波留夫
皇學博士

マス・コミュニケーション

一橋大助教授 南 博

グループ・ダイナミックス

お茶の水女子大助教授 水原 泰介

職業協力

立教大講師 武沢 信一

スポーツ

教育大教授 松井 三雄

宗 教

立教大講師 野村 暢清

い。のみ薬もくれないなんてのは不親切な医者だということになる。

打った石がごとく生きていて、捨て石などというものが一つもない治療をする医者でありたいと思っていると、病人のほうで、もっといろいろと治療をしてくれる「親切な」医者に乗り換えている。

正確な治療をめざして努力するということは医者の技倆の向上のためにはどうして必要である。

くる病人くる病人にポリブラグマジアをやつてどれかがあるだろうと安心して、しかも、それによって利潤の多いのをひそかによこんでいる医者は医学の進歩に無関心になってしまう。

最近では社会保険の監督の役所から医者に社会保険で「濃厚治療」をしないようにという指示を出してポリブラグマジアを牽制している。けれども、治療を商品のように点数制にすることでなりたっているいまの社会保険では、ポリブラグマジアをなくすることはできない。それはポリブラグマジアをヤミに追ひこむだけのことだ。

ポリブラグマジアをなくそうと思えば、医者が治療を売りものにする制度そのもの

を改めねばならない。医療の囲營ということが考えられるが、この場合にポリブラグマジアの廃止にもっとも抵抗するものが、医者と病人との両方の心理であるだろう。

医者がポリブラグマジアをやらなくても生活が安定するような制度をつくることであれば、医者のほうはなんとか新しい事態に適応できるだろうが、病人の心理的抵抗は容易にほぐれないように思う。

ことになにか治療らしいことをすれば、それで安心感がえられるといった神経症の病人もあるのだから、この習慣からの離脱は容易でない。

そういうときに心理学をやっている人たちは、病人の心理だとか、習慣への愛着だとかいうものをうまく説明して、ポリブラグマジアからの脱出をたすけてくれることと思う。

そのためにも、心理学を学んでいる人は今からポリブラグマジアにたいして充分に警戒し、どのような人間のタイプの医者がこのんでポリブラグマジアを行い、どんな技巧でそれを売りつけるかを研究してもらいたいと願うものである。(医学博士)

御予約会員以外のお方に
みたび価格について

念のためのお願

いつもひとかたならぬ御支援を賜っておりまして、感謝にたえません次第でございます。

お蔭様をもちまして、「心理学講座」も、第10回配本まで進捗いたしました。まいました。あつく御礼を申し上げます。

前2回にわたり謹告申し上げました如く、御予約のお方様のほかは、この十二月より六五〇円の定価どおりでお願い申し上げますこととなりますので、まことに恐れ入ります次第ながら、御購入ささきの御便宜のところへ、急ぎ念をおしてくださいませよう、この段あらためて御懇願申し上げます。

昭和廿八年十二月

中山書店

趨性・感覚・心理

内田 亨

下等動物のアメーバやユグレンなどの行動を見ていると、たしかにある物理学的のまたは化学的の刺激によって、ある法則のある反応をしていることがわかる。この反応はこれらの動物が健康であるかぎりはいつも見ることができるといえる。しかもそれは、物理または化学的刺激にたやすく左右されているので、植物の行動や感覚などと同じような風にも思われる。

しかし、ミミズやヒルなどになると、その反応がいともたやすくおこるといふわけではない。しかも強い刺激などをあたえるとき、にげさけるような動作をしたり、もがいて苦しそうな動作をすることもあって、大分動物らしい感じになってくる。

これがさらにすすんで、昆虫やクモ類などになると、本能となづけられている特別の行動があるのみならず、人がくると葉の裏にかくれたり、体をいからして威かくするような動作をしたり、時には攻撃をしてくるようなことがある。このような動作を見ると人類の心理的の動作と類似しているようにも思われる。もちろんこれら動物にも、時には記憶のような現象があるので、

それらの動作は大分心理的の基礎をつくるようになってきているのかも知れない。しかし、これら無脊椎動物の行動を分析してみると主として感覚による反応であることが多い。人類のように「考えて」とか「激情のあまり」とか「計画的に」などというものではない。

しかし、脊椎動物になると、魚類などはその行動はやはり感覚などによることが多いのであるが、やはり記憶もあり、激することもあり、孤独感もあるとされている。そして哺乳類になると人類にさらに近づいてくることはもちろんである。

ここでいつも思うことであるが、心理学者は、人類の心理をもととして考えてゆくために、動物の行動をいかかぶつて、できるだけ人類の行動と比較しようとする傾向がある。そのために実験の量にくらべて、考察の部分が非常に多いような気がして、動物学者の方は、なるべく動物を機械化して、その行動なども、そのように解釈してゆく傾向がある。そして心理学的のものは科学でないというように思っている人々もあるようである。そして一般に心理学的の結論は、その実験の量にくらべると、はなはだ少いものである。

動物心理学というものが、ただ動物の行動を観察し、そしてそれを人類心理学にあてはめていた間は、動物心理学という学問は、動物等の中で大分浮きあがった分野で

あったよりである。しかし、その行動が趨性、感覚などで分析されるようになり、その感覚器の構造、神経の比較解剖、また、感覚器や神経の生理学的研究がすすむにつれて、これらを材料としてたてられ、そして高等哺乳類の心理にむすびつけられた動物心理学は現在としては、もっとも新しい動物学の分野として今さかんになりつつある学問である。イギリスも、まとまって研究されているのは、ドイツとドイツではないかと思う。アメリカやフランスでもやられているが、これらの2国では少しまばらのような気がする。

今文学部系の心理学と、理科系の動物心理学とが少しずつ近づきつつあり、そしてその仕事の内容や材料なども少しずつ入りまじってきている。しかし文学部系の人々は主として哺乳類を用い、まれに鳥類などを用いることが多いのに反して、理科系の人々は無脊椎動物と魚類などを材料にしていろいろ場合が多い。これはやはり、その学問の起原が多少ちがっているためであろう。ただヨーロッパ諸国にあって本邦に欠けている大きな事実は、獣医畜産系の大学の講義や研究の中に、動物心理学や心理学がないことである。ヨーロッパの畜産科の研究者の中には、動物心理学の優秀な人々がいるのに、本邦には今までのところまだないし、大学でその方の研究はしてこないようである。(北大教授・理学博士)

*

*

読者のページ



私は学校で精神医学を専攻し、後に心理学を研修して、現在受刑者の収容と処遇の分類を担任していますが、その科学的調査方法をたててゆくために、本講座は大いに参考になります。

京都市東山区山科 法務事務官 柏村二郎

毎回すばらしい配本であると喜んで、います。最後に精細な索引と、原語・訳語の対照表をつけて下さい。期待しています。

東京都大田区大森 公務員 田中 和美

内容見本の企画どおり進行するものかどうかと、最初は疑問視しておりましたが、予定どおり毎月確実に配本されるのに安心しその並々なぬ努力に敬意を表します。内容も企画どおりなので満足ですが、あえて注文をつけさせていただきますと、今まで(第九回)は生理学的、医学的方面からの説明がやや多く、社会心理・経済・文化心理の方面が少いか、あっても簡略にすぎるところではないかと思われま。完成が近づいている際、この方面を担当執筆の諸先生がたの御労作を期待しております。

広島県安芸郡中本町 学生 藤山 稗

日夜、実業方面で多忙をきわめている六
十近い私には、本講座は難解な箇所が相当
ありますが、辞典などの力をかりて読んで
います。人間の心理の解明に興味をもち始
めましたので、なんとかこの勉強を続けて
ゆきたいと思っています。

堺市大浜北町十六 会社重役 宮下 二郎

この講座は専門的見地からみれば、あまり
り間口がひろすぎるせい、内容が簡略と
思われる点がしばしばあるように思われま
す。もっと枚数を増したら完璧になったで
あらうと思われるのがありましたが、一般
的に利用する場合にはきわめて好都合な良
書だと思えます。

大分市南王子町 公務員 渡辺 勉

教育関係の内容が多い点が、教育心理学
専攻の私には大変嬉しいです。いずれ卒業
後も教育方面の仕事に携わるつもりでいま
すから、その際も大いに役立つだろうと期
待しています。今後の御発展を祈ります。

横浜市中区打越 学生 神保 信一

編集部より

この第十回配本をお手許におとどけ申し
上げます。一九五三年もあと十数日にして
過ぎ去ろうとし、途ゆく人々の足どりも心
なしかあわただしく感じられます。この春
発行以来今月の第十回まで予定通り配本で
きましたことは、御執筆の諸先生方の御労
苦と、読者の皆様がたの絶大な御支援のお
かげでありまして、編集部一同心から感謝
致しております。第一回配本から今月まで
各位から寄せられました「愛読者カード」
は月平均約百通あまりの多きを数えました。
本当は、ことごとく御返事をさしあげた
いのでございますが、実行できずにおりま
してまことに申し訳ない次第に存じます。
また、月報紙上においての解答の御希望
もかなりございますが、スペースに余裕が
ございませぬので、それもできずにおりま
すが、皆様がたの御希望、御感想、御注意
等はそのつど分類検討致しまして、内容に
もりこむよう努力致しておりますゆえ、そ
れをもちまして御返事にかえさせていた
きたいと存じます。来春完成の暁には、必
ずや皆様がたの御期待にそいする座右の書
とならんことを確信しております。